

目指す学校像	児童にとって「私の居場所がある」、保護者にとって「通わせ甲斐がある」、教職員にとって「働き甲斐がある」、地域にとって「地域に根ざし、地域に愛され、地域とともに育つ」学校
重点目標	1 学びの自律化 <昨日よりも今日、成長したことが実感できる学習指導> 2 児童一人ひとりがWell-Beingな学校 <温かい学級経営、確かな児童理解に基づく教育相談・生徒指導、安全・安心な教育環境整美> 3 コミュニティスクールの推進<子どもを中心に、地域に根ざし地域に愛される学校> 4 教職員の資質向上と働き方改革 <教職員が互いに高め合う学校課題研究。心身ともに健康で働きやすい職場環境>

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日	令和7年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ・基礎的・基本的な知識・技能の定着については個人差がみられるものの、市学習状況調査(生活習慣に関する調査)の「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という質問において、肯定的な回答の割合が90%を超える。 ・市学習状況調査(生活習慣等に関する調査)の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問において、肯定的な回答の割合が79.4%である。 (課題) ・市学習状況調査(生活習慣等に関する調査)の「読書は好きですか」という質問で、肯定的な回答をした児童の割合が学年ごとに54%~88%と異なる。	家庭学習や読書習慣を身に付けさせ基礎学力の向上を図ると共に児童の学びの自律化を図る	① 朝読書(週1回)、図書ボランティアによる読み聞かせ(年間3回)、読書週間(年間2回)を実施する。 ② 家庭学習の行い方について、年度当初に全教職員で共通理解し、保護者懇談会で資料を配付、年間通じて3~6学年で家庭学習を実施する。(通年) ③ 業前の学習タイムにノートやプリント、タブレット等を活用し一人ひとりの学びに合わせた反復学習を行う。(年間) ④ 1学年で ICT 端末を活用した授業を行う。	・保護者の学校評価「一人ひとりに応じた授業の工夫」で肯定的評価について前年度を超える。(R5年度72.4%) ・全国学力学習状況調査「主体的に学習に取り組む態度」について肯定的な回答が前年度を超える(R4・77% R5・86.9%)。 ・学びの指標「主体的な学び」校内平均で前年度を超える(R5・3.2)。					
2	(現状) ・学校評価の「学校の生活が楽しい」という質問において、肯定的な回答をした児童、保護者共に90%である。 ・学校評価の「健康や安全に気を付ける意識や態度が育っている」という質問において、肯定的な回答をした児童が93%、保護者が83%である。 (課題) ・児童や保護者等の困りごとについて、小さなことでも早期に相談、迅速な情報共有、対応する体制を更に充実させる必要がある。 ・緊急時のトリアージを含め、危機管理対応の更なる見直し、訓練を図る必要がある。	確かな児童理解にもとづいた「児童一人ひとりがWell-beingな学校」の実現。  安全・安心な教育環境整美	① 不登校等児童生徒のためのSola(ソラ)ルームの設置、活用。オンライン授業の配信(通年) ② おはようメーターの活用(通年) ③ SC,SSW等の専門職を含めたケース会議を行う。(毎月1回程度) ④ 児童の活躍の場を広げる学校行事、なかよしタイムの充実。(通年)	・毎月の生徒指導・特別支援教育委員会で、児童一人ひとりの状況を確認し、全教職員で共通理解する。 ・児童の学校評価「学校の生活が楽しい」で肯定的な回答の割合が90%を超える(R5・90%)。					
3	(現状) ・令和5年度、学校運営協議会を年間3回、SSN連絡協議会を年間2回開催した。 ・市学習状況調査(生活習慣等に関する調査)の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問において、肯定的な回答をした児童が93.6%(4,5,6年平均)、「地域の人たちは自分たちを見守り支えてくれていると思いますか」という質問において肯定的な回答をした児童が100%である。 ・小中合同研修会を年間3回実施した。 (課題) ・教育活動の情報発信について、デジタル化を進めるとともに学校だより等のHP掲載について毎月更新を知らせるなどの工夫を行う必要がある。 ・スクール・コミュニティ推進のために学校運営協議会を更に充実させる。	スクール・コミュニティを推進し「子どもを中心に地域に根ざし地域に愛される学校」の実現。	① 保護者や地域の方、特に防犯ボランティアの方との連携を図るため、学期当初の登校指導や一斉下校を実施する。(年間3回以上) ② 地域、保護者の方が、いつでもどこでも学校の様子がわかるように、学校便り、学年だより、保健だより等、学校ホームページに掲載する。また、保護者からの要望を踏まえ、学年だよりは紙でも配付する。(毎月) ③ SSN連絡協議会(年間2回)学校運営協議会(年間3回)等を通して積極的に地域、家庭に情報を発信し活動の周知、協力を進める。	・市学習状況調査(生活習慣等に関する調査)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問において、肯定的な回答をした児童の割合が90%を超える。 ・保護者の学校評価「分かりやすく学校の様子を伝えている」が前年度を超える(R5年度77%)。 ・小中合同研修会を年3回実施し、地域ぐるみで基本的生活習慣の定着、授業規律の徹底のための取組等を行う。					
4	(現状) ・これまでに、算数や体育について校内研修を行い、その成果を「大久保スタンダード」としてまとめ、日常的に活用している。 ・職員会議や研修等の会議では、校務用端末を活用してペーパーレスで実施している。 ・高学年の教科担任制を実施している。 (課題) ・学校課題研究を充実させ、教職員の資質向上をさらに図っていく必要がある。 ・時間外勤務の縮減に取り組み、教職員が健康で働きがいのある職場環境づくりを図る。	教職員がやりがいを持ち、健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	① 学校課題研究で全教員一人ひとりが自分で教科や研究テーマを立て、児童の主体的な学習を促すための授業改善に取り組む。(通年) ② 担任制の実施により、教員の専門性を高めるとともに、授業の質の向上を図る。(通年) ③ キャリアナビ等を活用し、教職員の様々な研修会への参加を奨励する。(通年) ④ 毎週水曜日をノー残業デーとする。(通年)	・計画的な校内研修の実施(年間25回以上)。 ・校内研究授業の実施(年間5回) ・職場環境、満足度の肯定的回答が前年度と同水準(R5・91%)					

